

石橋忍月

忍月

文藝評論家、

小説家。

慶應元年十一月一日筑後國生

れ、大正十五年一月一日歿（八五—九三）。本名友吉。筆名しのぶ月

居士石橋、ドク下ル、カイネ、ドク下ル、ストーン、ブリツヂ、匿名

子、可行生、合掌法師、啄木鳥、夢の舎主人、奄倉生、完璧生、局外

生、嵐山人、巖々法師、後淵隱士、忍、忍ヶ岡の隠士、忍ヶ岡隱士、忍

月居士、忍月生、懐郷生、月の舎しのぶ、梅檀生、椿夢樓主人、樂只

庵主人、氣取半之丞、水泡子、淡水生、燧洋生、獨笑生、疎影生、福

州學人、綾帯生、竹林道士、筑水漁史、筑水漁夫、美天狗、肉食頭陀、

萩の戸、萩の門、萩の門忍月、萩の門生、落花生、絆郷逸士、輪月子、

閣下の愛兒、雜體子、鸚鵡山人、黃白道人、Dr. Kei etc. 明治二十四

年帝國大學法科大學卒。内務省勤務を経て二十八年辯護士開業、のち

長崎地方裁判所判事、長崎市會議員、長崎縣會議員等擔任。在學中か

ら諸誌の小文藝評論を執筆、取分け二十二年森鷗外との論争は有名。

著書『辻占賣』（忍月居士名、明治二十四年六月十五日春陽堂）『文學

世界』（『蓮の露』（同、明治二十七年六月十八日春陽堂）、『夏

滅』（明治二十八年十一月二十日春陽堂）、『雅任自向守』（明治二十

八年十一月十二日春陽堂）、『法親族篇通解』（本名、明治二十

九年九月十五日春陽堂）、『石橋忍月評論集』（昭和十四年十一月十日

岩波書店「岩波文庫」）等。